

【表題】 ビーチクラフト式 A-36 型機を用いた出力アイドル状態での
降下角について【調査報告】

【著者】 山下 勝

【発表】 航空大学校研究報告 R-57

【時期】 2004年12月

【概要】

航空大学校は平成 4 年 4 月から単発訓練機として、ビーチクラフト式 A-36 型機(以下「A36」という)を使用している。

単発機の A36 においては、エンジン停止を想定した不時着訓練は、緊急操作訓練の中でも重要な訓練である。承認された飛行規程には、A36 のエンジン停止時の滑空性能に関して、「滑空距離は地表からの高度 1,000 フィート当り約 1.7 哩(2 哩)である。」と規定され、過去、横山らは A36 の出力アイドル時の滑空性能 (IAS : 110 ノット) に関して、滑空距離は地表から高度 1,000 フィート当り約 1.9 哩であり、Prop High RPM での滑空性能は、Low RPM に比べて悪い事を明らかにしている。

不時着訓練の 1 つの課目として、Simulated Power Off 180° Side Approach がある。これにおいて出力アイドル状態で、100 ノット・フラップ上げ形態から、90 ノット・フラップアプローチ形態への移行の判断は、目視により行うこととしている。しかし、学生にはその降下角の違いはほとんどわからず、判断に迷いを生じているのが現状で、実際に課目として実施する上では、その両者にはっきりとした違いはないのではないかと感じている。これについては過去の横山らの報告にも言及されていない。

そこで本研究報告では、上記両者の降下角の違いについて調べることにした。